



歴史講座
 「三の丸内戸田家臣 多湖岸右衛門が残したもの」
 「武家屋敷での生活」に参加して
 国宝松本城おもてなし隊 橋本 信彦

常日頃より江戸中期以降の武士の仕事や生活には強い関心を持っていました。それゆえ1月29日(月)に開催された歴史講座のテーマはとてどもタイムリーな企画でした。特に三の丸内の武家屋敷という点で強く興味を惹かれ参加致しました。

軍事方面の役職であったという多湖家に引き継がれてきた品々には、当時を偲ぼせる歴史の重みや息吹が感じられ、非常に見応えのあるものばかりでした。特に陣羽織や鎖帷子、前立脇立、采配や馬具等は当時の姿が目の前に見えるかの様でした。また古文書類も数多く残されており、今後新たな発見がある事を期待するばかりです。
 国宝松本城おもてなし隊がお城で活動を始めて今年で7



50人以上の参加があった歴史講座

年目になります。当初は、甲冑を着ることが前提だったため、戦国・江戸初期の戦乱期を表現する事が多く、江戸時代中期以降についてはあまり光を当ててこなかったくらいがあります。しかし今後は、松本城の歴史全体に光を当てて表現していく事が大切だと改めて感じました。多湖家の

方々に感謝をするとともに、2回目、3回目の講座が開催される事を待ち望んでいます。ありがとうございました。



多湖家が所蔵する品々について説明する松本城管理事務所の後藤先生

松本城三の丸跡
 土居尻の発掘調査

現地説明会が開催される!

2月11日(日)、北土井尻町会で発掘調査の現地説明会が開催されました。

今回発掘調査が行われた場所は、三の丸西端の土居尻と呼ばれる位置で、江戸時代中期に描かれた絵図によると、南北に「多湖」家と「芝(柴田)」家の2軒の武家屋敷の境を水路が流れていました。この水路は外堀の水を総堀に流し、水位調整機能のほか、雨



享保十三年秋改 松本城下絵図(1728年)より抜粋 松本城管理事務所所蔵

水や生活排水を流していたと考えられています。当日は約110人の参加者が水路遺構を見学され、松本城築城期から昭和30年代までの実に360年以上改修を繰り返しながら使用されてきた水路の役割や土木技術に関心を寄せていました。

遺構の中には平安時代の物と思われる木杭も見つかり、松本城前身の深志城の遺構が見つかる可能性もあるようです。調査は来年の3月まで続く予定ですが、調査後は埋め戻して内環状北線整備事業による道路拡幅工事が予定され



石組みの水路跡を紹介する文化財課の職員

ております。この機会に発掘調査の見学にお出掛けされてみてはいかがでしょうか。

地震体験車に乗ってみて

諸江 佑季子(鷹匠町)

2月16日(金)、大手公民館近くの広場にて地震体験車に乗る機会がありました。

いろんな地震が体験できるとの事で、私は「関東大震災」バージョンを体験してみました。恐ろしかったです。立っていることも出来ず、座って



中央地区町会長会議に参加し、地域の課題や現状を把握する濱さん(中央)

地域の皆様に育てていただき学んだ地域の宝

松本市地域づくりインタビュー
濱 由佳子

地域づくりインタビューとして、地域の皆様と様々な事業を通して関わりを持たせていただいた3年間を通して、私が生まれ育った松本市には地域の皆様が長い時間をかけて築き、守り、伝承してこられ

いることにしても何か丈夫な固定されている物にしっかりと掴まらないと出来ず、地震の際中に自分が移動することは不可能でした。内臓が口から飛び出るのではないかと思うほど上下左右に激しく揺れました。

以前ビデオで家具が倒れ、電灯が天井から落ち、何もかもが移動している様子を観て、夜中の地震だったら真暗

た歴史、文化、街並み、自然、特産物、人財といった多くの地域の宝である資源が多様にあることを学びました。また、学習旅行に訪れた生徒や国内外から訪れた観光客の方々が、住民の方と直接触れ合い交流することで、そうした地域資源が観光を通し、観光資源として活用されていることに気付きました。そのことがきっかけとなり、今後は皆様とのご縁を大切にしながら観光を通して地域資源を活用し、地域活性化事業に携わって参りたいと考えておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

3年間、温かくご指導いただき誠にありがとうございました。

闇の中で、ただただ地震のおさまるのを待つしか方法がないことを悟りました。落下物でケガをしないようにするのが唯一の対応策かなと思います。それと底のしつかりした靴を枕元に置いておけば良いと思いました。

一人でも多くの人に地震体験車に乗る機会をつくってほしい、日頃から備えていただきたいと思っています。



地震体験車に乗る参加者

松本城の野鳥たち ④

ヒドリガモ



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が、松本城の内堀で撮影

ヒドリガモは、カモ目カモ科マガモ属に分類される鳥類の一種です。全長はオスが約53センチ、メスが約43センチで、冬鳥として飛来し、越冬時は湖沼や池などに生息し、繁殖期は湿地帯などに生息しています。

食性は植物食の他、水生昆虫や軟体動物も食べます。鳴き声はオスの場合、口笛のような「ピュー、ピュー」という特徴ある甲高い声で鳴き、メスは他のカモ同様低い声で、「ガー、ガー」と鳴きます。尚、有明海の養殖場の海苔や、各地域で栽培している大麦を食害してしまうことがあります。生産者を悩ませているそうです。

長元坊 チョウゲンボウ

がんばれ 日本!

今年も信州の冬は長く、まだまだ寒い日々が続いておりますが、周辺の街路樹のドウダンやハナミズキの芽もふつくら膨らみ、何となく春を身近に感じさせます。

韓国の平昌五輪、たいへん寒い中での開催、選手の皆さんの活躍の様子を毎日テレビで応援しました。競技の済んだ後での選手の皆さんがインタビューで話される言葉を聴いていると、日頃如何にご苦労をされてきたか選手の皆さんは勿論ですが、選手を見守り陰ながら支えてこられた家族の苦勞は、私たち観覧者には計り知れないものを感じました。日本を代表して頑張っている選手の皆さんに、最大のエールを送りたいと思います。

いよいよ次は2020年の東京五輪です。1964年の東京五輪から50数年経ちます。当時はカラーテレビが急に普及しました。今回の東京五輪は何が出てくるのか大いに期待し、日本経済の牽引を願いたいものです。

(M・F)